ENCYCLOPAEDIA JUPITER

世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

2

ウッェ―カセキ

世界文化社

世界文化大百科事典
《ジュピター》

2

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表)　〒102

発行者　鈴木　勤
編集　株式会社世界文化社
株式会社日本アートセンター

印刷　株式会社東京印書館
製本　中央精版印刷株式会社
製函　文京紙器株式会社
用紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　8211

凡　　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京⟶トウキヨ
ヨーロッパ⟶ヨロツハ

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　本見出し
げんじものがたり　【源氏物語】
エヌエイチケー　［NHK］
インキ　［ink］

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　【沼津】　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　【羅紗】
らっぱ　【喇叭】

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　【大阪(府)】
おおさか　【大阪(市)】
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　【河北省】　ホーペイ省
ふざん　【釜山】　プサン
もうたくとう　【毛沢東】　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　【上海】
ペキン　【北京】
メイランファン　【梅蘭芳】

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　【入れ墨】　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　［whisky］

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　［*Aloe*］

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➤濁音➤半濁音の順とした。

しんくう　【真空】
しんぐう　【新宮(市)】
じんぐう　【神宮】

はい　【肺】
ばい　【蝇】
パイ　［pie］

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

じゅう　【銃】
じゆう　【自由】

3　長音の〈ー〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

あへん　【阿片】
アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

あか　【赤】　⇨色
あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

じゅんし　【殉死】
じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，（　）の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1975年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名の表記は，本文の地名表記の基準に従っ

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

た。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　【関西弁】　⇨方言
しょせき　【書籍】　⇨図書
サイン　⇨正弦
ジンフィズ　⇨カクテル

→ ➔　解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は，
従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの
あいいろ　【藍色】　……(解説)……。➔色

*　解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　【安山岩】　中性の火山岩*。
いほうじん　【異邦人】　カミュ*の小説。

〔 〕〈 〉　解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合
〔名称・歴史〕
〔生活〕
〔衣食〕
〔住居〕
〔風俗習慣〕
〔音楽〕
貨幣の場合
〔種類〕
〔制度〕
〔歴史〕〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉　引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に〈日本国民は，正義と ……
戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり，……

《 》　書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》
《カルメン》

( )　語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)
燃料ガス(都市ガス)
慶長年間(1596～1614)
1872年(明治5)

( )　読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)
伊豆(いず)半島
香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	°′″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第2巻

右翼	26（ページ）	立正大学教授	鈴木安蔵
映画	52	成城大学教授	浅沼圭司
江戸時代	104	学習院女子短期大学学長	児玉幸多
絵巻物	128	東京国立文化財研究所	宮　次男
エレクトロニクス	146	早稲田大学教授	伊藤糾次
演劇	156	早稲田大学教授	河竹登志夫
オートメーション	290	早稲田大学助教授	内山明彦
オペラ	308	国立音楽大学講師	吉田泰輔
階級	376	創価大学教授	樺　俊雄
海洋開発	414	東京水産大学教授	佐々木忠義
化学繊維	440	文化女子大学教授	小川安朗
科学哲学	444	東洋大学教授	永井成男
核家族	462	中央大学教授	那須宗一
核酸	466	東京大学教授	今堀和友
学生運動	472	関西大学教授 東京都立大学助教授	海老原治善 小沢有作
核戦略	476	軍事評論家	関野英夫
家計	490	生活経済研究所所長	青木　茂
火災	502	消防庁	藤田昭三
火山	510	九州大学教授	片山信夫

う つえ

うつえしじゅうはちたき 【宇津江四十八滝】 岐阜県吉城(よしき)郡にある県立自然公園で，宮川支流の宇津江川にかかる四十八の滝があり，滝の上流では雄大な日本アルプス連峰が遠望できる。高山線飛騨(ひだ)国府下車が便利。

うつぎ 【空木】 双子葉植物・ユキノシタ科。ウノハナともいう。山野の陽地，川岸などに普通の落葉低木。高さ2m前後。枝は対生し，中空である。葉は楕円(だえん)形で対生し，長さ3～10cm，幅1.5～5cm，細かい鋸歯(きょし)があり，両面に星状毛がある。花は白色の5弁花で，5～6月，枝の先に多数集まって咲く。八重咲きのものもある。朔果*(さくか)は球形で頭は平たい。この果実を君子仙(くんしせん)と称し民間ではせき止めとして用いることがある。性質はじょうぶで土質を選ばない。繁殖は株分けによる。 〔加藤僖重〕

うつくしいたましいのこくはく 【美しい魂の告白】 ゲーテ*の教養小説*《ウィルヘルム-マイスターの修業時代》第6巻の内容全体を形づくる挿話(そうわ)。敬虔(けいけん)な一女性の深い宗教心の成長の告白的記録で，演劇の世界に幻滅した主人公ウィルヘルムは，これを読んで精神的危機を救われる。しかし，作者は結局，主人公を宗教的陶酔に満足させずに有益な人生活動に導く。➔ウィルヘルム-マイスター

うつくしがはら 【美ケ原】 長野県のほぼ中央，諏訪湖(すわこ)の北，松本盆地の東側の筑摩(ちくま)山地にある高原。古い火山の溶岩が削剝(さくはく)されて平坦(へいたん)になったもので王ケ頭・茶臼(ちゃうす)山(2,006m)などを中心に，2,000m内外の高原状の稜線(りょうせん)が連なり，高山植物の美しい草原や湿原が展開する。ここからの北アルプスの展望はことにすばらしく，夏のハイキング，冬のスキーでにぎわう。

うつくしきあおきドナウ 【美しき青きドナウ】 ワルツ王ヨハン-シュトラウス*2世作曲のワルツ。作品番号314。はじめ男声合唱曲として書かれ，1867年2月15日にウィーンで発表されたが，あまり評判はよくなかった。ところがパリの万国博覧会に招かれて，オーケストラ曲として演奏して喝采(かっさい)を博し，ロンドンでも好評で，以後彼の数あるワルツの中でも特に有名なものとなった。序奏と後奏をもつ五つのワルツの連続した形をもっている。 〔向坂正久〕

うつくしきすいしゃごやのむすめ 【美しき水車小屋の娘】 シューベルト*作曲の連作歌曲。《冬の旅*》と同じミューラーの詩に基づいている。20曲からなり，1822年に作曲された。①さすらい，②どこへ，③止まれ，④小川への感謝，⑤仕事を終えて，⑥疑い，⑦いらだち，⑧朝のあいさつ，⑨水車小屋の花，⑩涙の雨，⑪私のもの，⑫休止，⑬緑のリボン，⑭狩人(かりうど)，⑮ねたみと誇り，⑯好ましい色，⑰いやな色，⑱しぼんだ花，⑲水車小屋と小川，⑳小川の子守歌。若者の水車小屋の娘に対する恋と失恋をうたった名品である。 〔向坂正久〕

うつくしのもり 【美ノ森】 山梨県北部，八ケ岳南東麓(ろく)の美ノ森山(1,543m)一帯をいう。小海線清里駅の北西方にあり，ツツジ・スズランなどが群生する草原である。清里から自動車道路が通じ，キャンプ場となっている。

ウツギ

美ケ原　王ケ頭の火山台地斜面はお花畑が広がり，牧場などに利用されている。ここは日本の屋根にふさわしい眺望をもち，はるかに北アルプスの乗鞍岳や穂高連峰をはじめ中南アルプスの山々が遠望される

うっけつ 【鬱血】 静脈の流れが妨げられて，局所の組織に静脈血が異常にふえた状態。局所はチアノーゼ*を呈して皮膚や粘膜が暗紫色調となり，温度も下がり，腫張(しゅちょう)する。長く続くと血液の液体成分が組織内に漏出して水腫や出血が起きる。

うっけつにゅうとう 【鬱血乳頭】 視神経は眼球後壁を貫いて眼球内にはいり，そこで四方へ枝を出している。眼底を見ると，この視神経刺入部が縦楕円(じゅうだえん)形の高まりとして見える。これを視神経乳頭という。この乳頭が強くはれて眼球内に突出した状態を鬱血乳頭という。脳腫瘍(のうしゅよう)の重要な症状の一つで，また高血圧の末期，脳炎などでもみられることがある。現在のところ発生機序は正確にはまだわかっていない。 〔氏原　弘〕

うったえ 【訴え】 ある者(原告)が他の特定の者(被告)との間で，自分の請求が法律上正しいものであるかどうかについて裁判所へ審理・判決を求める申し立てをいう。ふつう訴状という書面を裁判所の受付に提出して行なうことになっているが，簡易裁判所では口頭でも行なうことができる(民事訴訟法353条)。訴えの種類には，①確認の訴え，②給付の訴え，③形成の訴えの3類型がある。訴えを起こすと，重ねて同じ訴えを起こすことができないという効果とか，また訴えによって審理・判決を求めている権利についての時効*も，中断されるという効果が生ずる。➔訴訟 〔内田剛弘〕

ウッチェロ [Paolo Uccello] (1397～1475) イタリアの画家。はじめは金銀細工師として彫刻家ギベルティ*の弟子(でし)であったが，のち絵画に転じた。遺品は少ないが，1450年ごろの〈戦争図〉の連作やサンタ-マリア-ノベルラ聖堂*にある《ノアの洪水(に

ウッチェロ　《サン-ロマーノの戦い》　1455～1460　ウフィツィ美術館蔵

うずい)》などが知られている。その絵は，イタリア初期ルネサンス芸術に課された遠近法などの科学的理論の追求への熱意に満ち，特にマンテーニヤ*に大きな影響を与えた。〔井関正昭〕

ウッド ［Grant Wood］ (1892～1942) アメリカの画家。アイオワ州の生まれ。アイオワ大学とシカゴ美術研究所に学ぶ。その後，4度のヨーロッパ旅行を経て，アイオワに定住。北欧-ルネサンスの絵画に影響を受けた克明な細部描写によって，アメリカ中西部の農場生活や労働者を好んで描いた。作品に《アメリカン-ゴシック》《植木をもつ女》などがある。

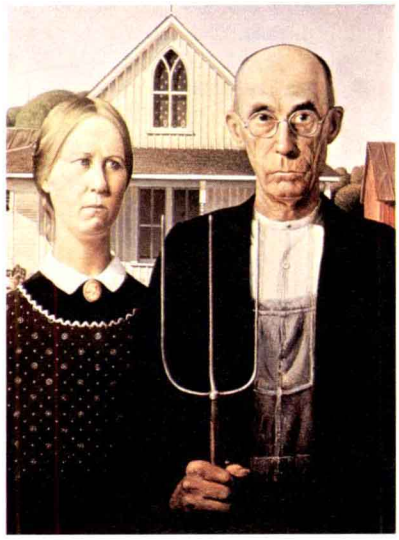
ウッドごうきん 【ウッド合金】 易融合金*の一種。組成はビスマス50%，鉛25%，スズ12.5%，カドミウム12.5%。融点68℃，比重7.9，熱伝導率0.032cal・cm^{-1}・sec^{-1}・deg^{-1}，融解熱8.4cal・g^{-1}。

ウッド-ブロック ［wood-block］ 木魚に似た打楽器で，レーニョ・木鐘などともいう。丸形・角形の2種があり，ドラム-セットに備えたり，手にもったりして，撥(ばち)でたたく。さえた音色がジャズや一部の管弦楽曲に応用されている。

うつのみや 【宇都宮(市)】 栃木県中央部，県庁のある市。11世紀に下野(しもつけ)(栃木県)の守護藤原宗円が築城し，江戸時代は戸田氏七万七千石の城下町，日光街道・奥州街道の宿場町・市場町として発達した。1896年(明治29)市制施行。第2次世界大戦中市街の大半を焼失したが，戦後は北関東第1の商工業都市として復興した。人口37万3,000。関東平野北端が宇都宮台地に接する地点にあたり，中心商店街を境として，東半に商業地区，西半にもと武家屋敷から発達した住宅地区や官庁街があり，宇都宮大学(農・工・教育)がある。産業三大別人口比は9：31：60で，商品販売額が県総額の40%に達する商業都市である。戦前は食品工業が盛んであったが，最近は機械工業が発達し，車両・航空機・電気機器・ミシンなどの大工場がある。東北本線・日光線・東武鉄道宇都宮線の分岐点で，国道4号線(陸羽街道)・119号線(日光街道)・123号線(水戸(みと)街道)が集まる。市街の西に位置する大谷(おおや)は大谷石の産地で，建築用石材として全国へ移出される。近郊はユウガオ・タバコなどが栽培される農業地域である。八幡山(はちまんやま)公園，つり天井の伝説をもつ宇都宮城跡，二荒山(ふたらさん)神社付近の前方後円墳，大谷寺の特別史跡大谷磨崖仏(まがいぶつ)などの名所史跡に富み，二荒山神社で奉納される田楽舞(1月15日)は無形文化財に指定されている。〔浅井得一〕

うつのやとうげ 【宇都谷峠】 ⇨蔦紅葉(つたもみじ)宇都谷峠

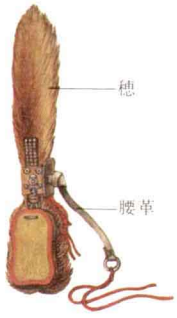
うつのやとうげ 【宇津谷峠】 静岡市の西南にあり，静岡市とその西の岡部(おかべ)町との境をなす峠。標高180m。旧東海道では丸子(まりこ)・岡部の両宿駅の間にあたる。国道1号線はトンネルでここを通過するが，かつては山間を縫う険路であった。《伊勢(いせ)物語》の在原業平(ありわらのなりひら)の〈駿河(するが)なるうつの山辺のうつつにも夢にも人に会はぬなりけり〉の歌や，河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)の名作《蔦紅葉宇都谷峠*(つたもみじうつのやとうげ)》で名高い。〔高野 繁〕



ウッド《アメリカン-ゴシック》1930 シカゴ美術研究所蔵

宇都宮市 大谷石の採石場。大谷石は第三紀緑色凝灰岩で，ここでは厚さ300mに達するところもある。採石によってできた空洞で落盤が起き，人身事故を起こすこともある

ウツボ



空穂

ウッパータール ［Wuppertal］ 西ドイツ，ノルトライン-ウェストファーレン州の商工業都市。ライン川の支流ウッパー川に沿う。人口140万9,700(1974)。ドイツの主要な機業都市で，織物・リボン・レースのほか，金属・化学工業・機械・製紙などの工業が盛んである。1929年にエルバーフェルト・バルメンなどの6町村が合併してできた都市で，市街は川沿いに13kmも延び，モノレールが交通機関として用いられている。

うつびょう 【鬱病】 ⇨躁鬱病(そうううつびょう)

うつぼ 【鰐】 硬骨魚類・ウツボ科。80cmほどになる海産魚。ウナギを太くしたような形で，黄かっ色の地に暗かっ色の不規則な模様がある。本州中部以南の岩の多い岸べにすむ。気が荒く，鋭い歯で人間にかみつくこともある。皮がかたく，なめして工芸品などに使われる。肉はまずい。近縁のものに，トラウツボ・コケウツボ・ユリウツボなどがあるが，習性・分布・大きさなど，いずれもウツボによく似る。

うつぼ 【空穂】 矢を盛る道具で，武士が背や腰につけていくさや狩りに出た。はじめ下部のかまどと称するもののみだったが，矢羽根を雨などで損ぜず，また残る矢数を敵に知られないように，上部を穂でおおった。穂は竹を骨組みとし，サル・シカ・イノシシ・クマ・鳥類などの毛皮を張って中は空洞(くうどう)にした。矢数は7本・9本・11本と定め，季節により，矢の種類により，かまどの中の並べ方が違っていた。空穂には毛皮を使わぬ木製のものがあり，大和(やまと)空穂という。これに対し毛皮をかけたものは騎馬空穂といった。また，大形で矢数の多い〈土俵〉という空穂は，腰につけられず従者に持たせた。弓矢が合戦の主要な武器だった鎌倉・室町時代に大いに用いられた。〔稲垣史生〕

うつぼかずら 【靫葛】 双子葉植物・ウツボカズラ科。ネペンテスともいう。熱帯，特にボルネオなどの湿地に多く，他の植物にからむ多年生でつる性の食虫植物。日本

ウツボカズラ

では温室で栽培される。葉の先が伸びて筒状の捕虫嚢(ほちゅうのう)となり，蜜(みつ)にひかれて筒の中にはいった虫は，分泌される消化液によって消化され，吸収される。

うつぼぐさ 【靫草】 双子葉植物・シソ科。カコソウともいう。日あたりのよい山や野原に多い多年草。茎は10～30cmで直立し，断面は方形。葉は対生で，長楕円(ちょうだえん)形。6～8月に茎の上部に紫色の唇形(しんけい)の花を穂のようにつける。穂の長さ3～8cm。花が終わるとこの穂は枯れる。花穂を乾燥したものは生薬で夏枯草といい，カリウム塩を多く含む。漢方では利尿薬として用いられる。 〔小清水義隆〕

うつぼざる 【靫猿】

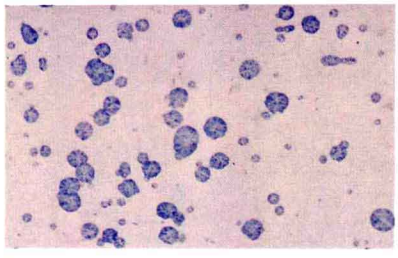
1狂言の曲目。大名狂言。太郎冠者(かじゃ)を連れて狩りに出た大名(シテ)が，途中で出会った猿引きに，サルの皮を靫*にかけたいから貸せといい，弓に矢をつがえて脅迫する。猿引きはしかたなくサルの急所を一打ちにしようとするが，そのつえを取ったサルが船の櫓(ろ)を押すまねをするのを見ると，命にかえても殺すことはできないと泣き伏す。もらい泣きをした大名はサルの命を許し，サルに舞を舞わせて自分もまねて楽しみ，装束を脱いで猿引きに与える。殺気をおびた舞台は愁嘆場となり，一転してにぎやかにめでたく終わる。緊密な構成をもつ大曲。大名と猿引きに相譲らぬ演技力が要求され，サルの無心のいじらしさが，涙と笑いを誘う。猿引きの歌う猿唄(さるうた)は，中世の民謡の旋律を伝えている。狂言師は〈サルに始まってキツネに終わる〉といわれ，このサルで初舞台を踏み，《釣狐*(つりきつね)》のキツネで技術の修行を終了する。 〔増田正造〕

2常磐津(ときわず)の曲名。《花舞台霞(かすみ)の猿曳(さるひき)》の略称。1838年(天保9)5世岸沢式佐によって作曲された舞踊のための音楽で，筋は狂言によりながら，大名が女大名，太郎冠者(かじゃ)が奴(やっこ)になるように，はなやいだ面が強くなっている。

3長唄(ながうた)の曲名。1869年(明治2)2世杵屋勝三郎(きねやかつさぶろう)によって作曲された。筋は狂言によっており，劇的な動きの音楽的な描写に注意が払われている。花見どきのにぎわいの描写，サルを殺されそうになるくどきでの義太夫(ぎだゆう)的な表現，また，助けてもらったあとのさる回しの音楽などが好例である。 〔徳丸吉彦〕

うつほものがたり 【宇津保物語】 平安前期の物語の一。成立年代は不明。作者も不明。ただし男性であろう。作者に源順*(したごう)をあてる説もある。巻数は〈俊蔭巻(としかげのまき)〉から〈楼上巻 下〉までの20巻，現存最古の長編物語で，主人公清原仲忠(なかただ)の人となりとその行末を追う形をとり，仲忠の恋した貴宮(あてみや)，貴宮を恋う源涼などが登場する。主題は，琴曲の伝承を中心とする孝の思想の交じった儒教的理想主義にあり，ひとりの美しい娘をめぐっての《竹取物語》的な恋物語の世界は，ときには興味本位に描かれるが，あくまで副次的立場をとる。物語名の由来は，仲忠母子が貧窮のうちにこもった山の木のほら穴から出ている。なお〈俊蔭巻〉などには伝奇物語的な要素と歌物語的な要素とが未分混融の形で現われ，〈藤原君巻〉の常軌を逸した3人の人物の描写，〈吹上巻〉の源涼邸の豪奢(ごうしゃ)なありさま，〈国譲巻〉の迫真的な内容をもつ政争の記述，〈楼上巻〉に現われるロマン性など，部分的に高い評価を与えられはしても，おおむね平板な形に終始し，物語文学の完成過程に至る道筋を示しているといえる。 〔中島 尚〕

ウツボグサ



雨　滴 (×½) 水溶性染料の粉末で被膜した濾紙に雨を受けると，雨のあたった部分が染色され斑点ができる。実際の雨滴の大きさは，斑点のさしわたしの3分の2に比例する

うつり 【移り】 俳諧(はいかい)用語。連句*における結合の方法の一つで，前句の気分・場面に映発させる〈映り〉と，前句の気分を流動的に受けて付ける〈移り〉とがある。元禄(げんろく)俳壇一般に広く提唱されたが，特に蕉風(しょうふう)俳諧*でくふうが深められた。

うつりょうとう 【鬱陵島】 ウルルン島 朝鮮半島，江原道の東方122kmの日本海上の火山島。最高峰は聖人峰(984m)。南北9.5km，東西10kmのほぼ5角形を呈し，面積72km²，人口18,000(1963)。雨量は1,570mmに達し，冬の雪も多い。海岸線は出入りが少ないうえ海食崖(かいしょくがい)が目だち，良港には恵まれない。平地は乏しいが，山の斜面を耕作し，トウモロコシ・ダイズ・麦などを栽培している。一方，付近の海域ではリマン海流(寒流)と対馬(つしま)海流(暖流)が合し，魚類は豊富で，イカ・ブリ・サバ・アワビなどの漁獲がある。古くは于山国があり，新羅(しらぎ)に属していたが，女真人に滅ぼされ，12世紀ごろは無人島であった。現在の住民はすべて近代に渡島したものである。江戸時代以来，わが国と朝鮮との間で島の帰属や漁業権についての紛争がしばしばくり返されたが，1910年(明治43)日韓(にっかん)併合後は慶尚(けいしょう)北道に編入された。 〔矢守一彦〕

うていえんば 【烏亭焉馬】 (1743～1822) 江戸後期の噺本*(はなしぼん)・洒落本*(しゃれぼん)・黄表紙*の作者で狂歌師。本名は中村英祝，通称は和泉屋(いずみや)和助，別号には立川談州楼などがある。江戸本所の大工の棟梁(とうりょう)の家に生まれ，ことに狂歌・茶番狂言をよくし，落語を寄席(よせ)芸能として発展させるきっかけをつくり，落語中興の祖といわれた。洒落本《蚊不食呪曾我(かのくわぬまじないそが)》は代表作の一。

うてき 【雨滴】 雲から落下してくる水滴。雨粒ともいう。空中に浮かんでいる雲粒*より，はるかに大きい。雲粒から雨滴に成長するには，水蒸気からの凝固とともに，衝突・併合などの複雑な過程が必要である。また，高空で氷の粒として成長し落下する途中でとけて雨滴になる場合もある。雨滴の大きさを調べるには，濾紙(ろし)に，水溶性染料(例，ウォーターブルー)の粉末をガソリンで被膜したものに雨滴を受けて斑点(はんてん)をつくり，斑点の直径を測定すればよい。雨滴の実際の大きさは斑点の直径の3分の2に比例する。→雨 〔曲田光夫〕

うでくらべ 【腕くらべ】 永井(ながい)荷風*作の長編小説。1916年(大正5)8月から1917年10月まで《文明》に連載。その後単行本となったが私家版のほか多くの諸版がある。芸妓(げいぎ)駒代(こまよ)を中心に菊千代・君龍(きみりゅう)の間に生じる金と恋との争いをめぐって，第1次世界大戦後の好況下にあった新橋花柳界の風俗を詩情豊かに，また著者の文明批評をも鋭く加えながら描いたものである。

うでどけい 【腕時計】 手首につけて携帯される小形の時計。20世紀初めに市場に現われ，第1次世界大戦後，急速に懐中時計に取って替わった。現在，携帯用の時計(ウォッチ)の90%以上を占めている。手首につけられるため，衝撃・振動・磁気・温度変化およびほこりや湿気の侵入について，特に考慮を払った製品がある。一般に腕時計の機械部分は直径30mm以下であるが，カレンダー・目ざまし・自動巻き・クロノグラフ*などの複雑な装置を備えた製品も数多くつくられている。精度については，誤差が1日につき1秒以下という水晶時計*から，3分程度のロスコフとよばれる安価なものまである。 〔元持邦之〕

うでぬき 【腕貫】 田畑で働くときや山仕事や土木工事に従事するときなどに，手首からひじにかけて着装する腕カバーよう

のもの。テヌキ・ユガケなどともいう。腕をおおって，きゃはんのようにひもで巻く手おおい，また，子どもの手袋のようにひもをつけて首にかけるもの，こはぜ留めにするものもある。草の葉やイバラ，虫・ヘビの害を防ぎ，また日よけ・汗よけにするほかに，暖かくして，筋肉の疲れを少なくする効果もある。あるいは事務をとる際，そで口のよごれを防ぐためのそで口カバーも，腕貫の一つといえる。なお，腕貫のようにそでを細くした着物を〈うでぬき〉という地方が千葉県・秋田県などにある。

〔渡辺欣雄〕

うでわ 【腕輪】 ⇨ブレスレット

うてん 【手鬘】 ⇨コータン

うと 【宇土(市)】 熊本県中部の市。近世初期には，小西行長の居城があってキリシタン文化の中心となり，江戸時代は細川氏の支藩三万石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口33,000。宇土半島の基部を占める交通の要地で，産業三大別人口比は32：25：43。日本合成化学の工場があり，セメント・医薬・農業加工などの工業も興っている。鹿児島本線・三角(みすみ)線の分岐点で，国道3号線・57号線が通ずる。熊本市に近く，最近その衛星都市化の傾向が強い。

うど 【土当帰・独活】 双子葉植物・ウコギ科の多年生草木。茎は1.5mぐらいに伸び，大形の複葉を互生する。全国の山野に自生しているが，野菜として利用するのは栽培品種で，白芽・伊勢白(いせじろ)・坊主などがある。根株は株分けにより養生し，根株を地下の室に入れたり，ビニルハウスに入れたり，または盛り土をして，若茎を軟白したものを出荷するのが普通である。特有のかおりがするので，酢の物，サラダ，つま物，しるの実などの利用が多い。〔松本正雄〕

うど 【鵜戸】 宮崎県日南市の北域で，海に迫る鵜戸山地内の狭い平地部を占める。東へ突出する鵜戸崎には約700 m²の海食洞(かいしょくどう)の中に神武天皇の父，鸕鷀草葺不合尊(うがやふきあえずのみこと)を主神とする鵜戸神宮*があり，古くから〈海の神〉として全国的な信仰を集めた。海岸沿いに国道220号線が走り，日南海岸国定公園の中心部となっている。

ウード [ūd] アラビア・北アフリカの代表的な撥弦(はつげん)楽器。15世紀以前スペインに渡ってラウドとよばれ，それがヨーロッパじゅうに広まり，変形されてリュートやギターとなった。西洋ナシの形をした胴とネックに8～12本(トルコでは11本)の腸弦が張ってある。多くは2本ずつ同音に調弦してある。羽毛を指にもってはじくか，あるいは直接指ではじいて演奏する。古来，アラビア音楽演奏の中心的役割を果たし，楽理構築に際しても有効に使われた。さまざまな微小音程，たとえば中立3度を出せるようにフレットの位置を厳密に計算し，ウードに則して，マカーム*という旋法体系がつくられた。

〔山口　修〕

ウード

ウード

ウトウ

鵜戸神宮　天然の岩窟内に建立された社殿

うとう 【善知鳥】 鳥類・ウミスズメ科。中形の海鳥。胸腹部は白，他の部分はかっ色，くちばしは橙色(とうしょく)で，繁殖期には上嘴(じょうし)基部に上方に伸びる突起ができる。土に穴をあけて営巣する。北海道の天売(てうり)島・大黒島などで集団繁殖し，冬季には本州・九州にまで南下する。➔ウミスズメ

うとくせん 【有徳銭】 室町後期に有徳人とよばれた都市や荘園*(しょうえん)の富裕な商工業者から徴収した一種の富豪税。幕府・大名・寺社などは，商品経済の発展に伴って台頭した都市の商工業者や荘園の富裕者への課税を有力な財源とした。これははじめは臨時の課税であったが，しだいに恒久的性格をもつようになり，堺(さかい)・奈良・坂本などの富豪に最も多く課税された。有得銭・有福銭とも書き，徳銭ともいう。

うどさん 【有渡山】 静岡県清水(しみず)市南部の丘陵。有度山とも書く。標高308 mのドーム状の小山塊で，南側は海食崖(かいしょくがい)で駿河(するが)湾に臨み，南端の一残丘である久能山*(280 m)上に徳川家康(いえやす)を祭る東照宮がある。広い意味で有渡山塊全体をさして久能山ということもある。

うどじんぐう 【鵜戸神宮】 宮崎県日南市鵜戸の日向灘(ひゅうがなだ)に面した絶壁上の洞内(どうない)にある。祭神は鸕鷀草葺不合尊*(うがやふきあえずのみこと)。ヒコホホデミノミコトが海神の娘トヨタマヒメに子を生ませた場所とされ，この浜を宇土の浜というのは，産殿(うむとの)の意であるとされる。例祭は2月1日。なお，室町時代に愛洲惟孝(あいすこれたか)が当社に参籠(さんろう)して，剣術の一派陰流を創始したことは著名である。

うとねしま 【鵜渡根島】 伊豆(いず)諸島の利島(としま)と新島(にいじま)の中間にある無人島で，両島からともに約4 km離れた位置にある。行政上は新島本村に属する。西にフズシ根，東にオダイ根とよばれる岩礁を伴い，近海はイセエビの好漁場である。火山島で，最高点は208 m，まわりは海食崖(かいしょくがい)で囲まれている。

うとはんとう 【宇土半島】 熊本県宇土郡の熊本平野南部から南西に突出した半島で，先端に三角(みすみ)町があり，北の有明海と南の八代(やつしろ)海とを分けている。長さ約18kmで九州本土と天草諸島との陸橋のような役目をしており，現在は天草五橋*によって結ばれている。丘陵性であるが，半島の基部には大岳(477 m)，先端には三角岳(406 m)などの安山岩質の山がある。

ウドムルト(自治共和国) [Udmurtskaya A. S. S. R.] ソビエト連邦，ロシア共和国内の自治共和国。ウラル山脈の西，クイビシェフ湖の北東にある。面積42,100km²。人口144万4,000(1975)。主都イジェフスク。住民はフィン系のウドムルト人(古くはボチャックとよばれた)が52%で，その他ロシア人・タタール人などで構成される。主要産業は，機械・金属・木材などの工業で，工作機械・オートバイ・鉄鋼・建築用材などの生産が多い。またカマ川による水力発電も重要である。農産物ではライ麦・ジャガイモ・アマ(亜麻)などが栽培される。15～16世紀にロシアに併合され，1920年にボチャック自治州となり，1932年自称名ウドムルトを正式の民族名に改め，1934年以降現在のようになった。

〔斎藤晨二〕

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

うどん 【饂飩】 小麦粉に食塩を混ぜて水でこね，細長く線状に仕上げたものを総称していう。ゆでて玉にしたものを，玉うどん・ゆでめん，乾燥したものを，乾めん・干しうどんという。現在大部分は製麺機(せいめんき)を用いてつくるが，すべて手で行なうこともあり，これを手打ちうどんという。小麦粉は，昔は〈うどん粉〉といって内地小麦を石うすでひいたものを用いたが，現在では輸入小麦からつくった小麦粉(メリケン粉)を用いている。

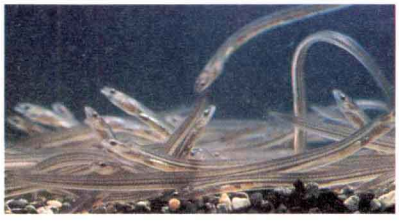
うどんの名の由来は複雑である。奈良時代に渡来した唐菓子の一種に，小麦粉のだんごにあんを入れて煮たものがあり，くるくるとして端がないので混沌(こんとん)といわれていた。食物なので混沌が餛飩(こんとん)となり，暑いうちに食べるので温飩(うんどん)となり，さらに転じて饂飩になったと伝えられている。したがって現在のうどんとはまったく違ったものである。一方，細線状に切った今日のうどんは，昔は切り麦とよばれ，冷やしたものを冷や麦，熱したものを熱麦といっていた。これが江戸時代に，いつのまにかうどんと名づけられるようになったが，そのいきさつは不明である。

〈種類〉 製法は単純ではあるが，太さや形によっていろいろの種類がある。薄く扁平(へんぺい)に切ったものを〈ひもかわ〉といい，同じようなものに〈きしめん〉がある。きしめんは，もとは薄く延ばしたものを竹筒の端で押し切ったので，碁子(きし)といわれたのであるが，現在はひもかわと同じ平打ちで名古屋の名物になっている。これらより少し小形のものが，ふつう，うどんといわれているもので，さらに細いものに，冷や麦*・そうめん*などがある。そうめんをうどんと別にする分け方もあるが，普通のそうめんは単に細いだけの違いなので，うどんの種類の一つにすることが多い。**〈食べ方〉** ゆでたものを熱湯で暖め，煮出しじるにしょうゆ・みりん・砂糖などで調味したしるをかけ，刻みねぎ・七味とうがらしなどの薬味をかけて食べるのが，最も普通の方法である。京阪(けいはん)ではこれを素うどん，関東ではかけうどんという。このほか，種物として，あんかけ・てんぷら・玉子とじ・なんばん・しのだ・おかめ・小田巻き・たぬき・ニシン・カレーなど多くの種類がある。冷や麦は氷に冷やして食し，盛夏に喜ばれる。〈そばは関東，うどんは関西〉といわれるように，うどんは関西方面がすぐれているようである。 〔佐藤友太郎〕

ウードン [Jean Antoine Houdon] (1741～1828) フランスの彫刻家。若くしてローマ賞を受けてローマに留学した。優雅な人体表現によるすぐれた肖像彫刻で知られている。

ウードン〈ボルテール像〉ルーブル美術館蔵

うどんげ 【優曇華】 クサカゲロウ科に属するこん虫の卵をいう。クサカゲロウ類では，細長い糸状の卵柄の先に楕円(だえん)形の卵が産みつけられ，一般に樹皮や葉の表面または天井などに，1か所に数粒から数十粒まとめて産付される。日本では，古くから〈うどんげの花〉とよばれ，吉事のしるしとする習慣があるが，生ずる場所によって不吉とされることもある。



ウナギ (上)シラスウナギ (下)えさを食う養殖ウナギ

うどんげ 【優曇華】 仏典に現われる想像上の植物。梵語(ぼんご)udumbara(ウドゥンバラ)の音写。優曇跋羅・烏曇婆羅・優曇鉢とも書く。また霊瑞(れいずい)・祥瑞とも意訳される。3,000年に1度花が咲き，そのときブッダ*や転輪王(理想的国王)が出現するという。転じて〈まれなること〉の比喩(ひゆ)に使われる。

うどんこびょう 【うどんこ病】 子嚢(しのう)菌による植物の病気。ムギ・マメ・ウリ・リンゴ・クワ・バラなどの葉・茎・穂・果実の表面に，うどん粉を振りかけたように白い粉がつき，のちに灰白色によごれることがある。これはかびの菌糸が植物の表面に増殖し，多数の胞子を形成したもので，灰白色のかびの中にのちに小さな黒点の子嚢殻(しのうかく)を生ずる。これは子嚢胞子を内臓し越年器官となる。日あたり・通風が不良，多雨，窒素肥料の多用の場合多く発生するので，これらの条件を改善し，石灰イオウ合剤などを散布する。 〔渡辺 実〕

うなぎ 【鰻】 硬骨魚類・ウナギ科。長さはふつう50cm程度であるが，ときに1mに達する。皮膚に粘液が多く，つかみにくい。うろこはないように思えるが，度の強い虫めがねでやっと見えるほどの小さなものが，規則正しくモザイク状に並ぶ。本州中部以南の太平洋岸には普通で，川の上流から河口に至る広い水域にすむが，日本海側と東北以北には少ない。川とまったく連絡のない池にすんでいることもある。ウナギは生命力が強く，水から出てもしばらくは生きているので，雨のときに陸上をはって川と無関係な池にはいりこむのだといわれる。熟卵をもつ親魚をみることがないので，〈ヤマノイモ変じてウナギになる〉，〈泥(どろ)中から自然に発生する〉などといわれたが，19世紀末に半透明でヤナギの葉のような形をしたレプトセファルス段階の稚魚が発見され，さらに1922年にデンマークのヨハネス-シュミットにより，大西洋沿岸のウナギの産卵場が，バミューダ島近くのサルガッソー海の水深400～500mの中層であることが突き止められた。日本のウナギは，秋，産卵のため川を下って産卵場に向かうが，その産卵場はまだわかっていない。また，日本ウナギのレプトセファルスは，発見数もごくわずかである。日本では，12～5月に河口に集まってくるほとんど無色透明なつまようじほどの大きさの幼虫(いわゆるシラスウナギ)をすくい取って，池で養殖するが，近年は河口の汚染のためにあまり捕れず，フランスから欧州ウナギのシラスを輸入したりしている。かば焼きにして珍重されるが，諸外国では食用にされることはあっても，それほど賞味はされていない。かば焼きのにおいは最も日本的なものの一つである。天然産では需要に追いつかず，ほとんど養殖物にたよっているが，それでも足りず成魚をも外国から輸入することがある。

ウナギの血清は，普通の魚が淡黄色なのに対して，美しい緑色で有毒であるが，熱でたやすく分解され無毒になる。ビタミンA・B_2が豊富で，万葉の昔から夏やせにきくとされてきた。土用の丑(うし)の日*には，大いに売れるが，この習慣の由来については定説がないようである。日本には，ウナギのほかに，オオウナギという体に大理石状の模様があり，長さが2m近くになる別種がある。これは黒潮の影響を強く受ける地方にだけ分布し，伊東(いとう)市の浄ノ池，和歌山県の富田(とんだ)川，鹿児島県の池田湖などが有名で，生息地は天然記念物に指定されていることが多い。食用にはあまりされない。オオウナギの産卵場もまだわかっていない。 〔菅野 徹〕

うなぎつかみ 【鰻攫】 双子葉植物・タデ科。ウナギヅルともいう。湿地に多い一年草。茎は下部が屈曲し，高さ30cmほどで，逆向のとげが多数ある。葉は丸いやじり形。5～6月，紅色または白色の花を頭状につける。なお，アキノウナギツカミは本種の一変種で，秋咲きで葉先がとがる。

うなづき 【宇奈月(町)】 富山県下新川(しもにいかわ)郡の町。人口7,600。黒部(くろべ)川の上流・中流部の4村が，1954年(昭和29)に合併して発足した。北陸本線黒部駅を経て富山地方鉄道黒部線が宇奈月温泉*まで通じている。平野部は段丘面や扇状地を開田した農業地帯であり，山間部は電源地帯として知られている。

うなづきおんせん 【宇奈月温泉】 富山県下新川(しもにいかわ)郡宇奈月町にある温泉。泉温42～95℃。泉質は無色透明の単純泉で，胃腸病・皮膚病・リウマチにきくといわれる。日本海に注ぐ黒部(くろべ)川中流の台地上にあり，1923年(大正12)開湯され，上流の黒薙(くろなぎ)・二見両温泉の元湯を引いている。黒部第4ダムの建設により，黒部峡谷探勝の基地として近年急速に発展した。交通は北陸本線黒部駅から富山地方鉄道の便がある。

ウナムーノ [Miguel de Unamuno y Jugo] (1864～1936) スペインの哲学者・文学者。現代スペイン文学のあらゆる領域において活動し，多くの影響を与えた。1891年サラマンカ大学のギリシア語教授となり，1901年に学長に就任したが，当時のプリモ-デ-リベラ政府を激しく批判したためカナリア諸島に追放された。のちに帰国して大学に復職し，共和国建設の革命に参加したが，晩年は人民戦線政府から離れ，内乱の渦中(かちゅう)に死んだ。主著《生の悲劇的感情》は，信仰と懐疑の間をさまよう人間の苦悩の中に生のエネルギーを見いだし，この苦悩をドン-キホーテのように生き抜くことを教えている。 〔飯塚勝久〕

うに 【海胆】 棘皮(きょくひ)動物・ウニ綱・正形亜綱に属する動物のことを一般にウニという。また，食用として珍重されるその生殖巣もうに(雲丹)といわれる。ウニ類には，半球状の本体(俗に殻(から)という)からクリのいがのようにとげがはえているものが多い。本体は互いにかたく接合した骨板でおおわれる。口は腹側に，肛門(こうもん)は背側に開く。口には，アリストテレスが研究したことから〈アリストートルのちょうちん〉とよばれるかたい5枚の歯が集まった咀嚼器(そしゃく)がある。とげの一部は先が2～3に分かれた叉棘(しゃきょく)に変形しており，これを使って体表に付着した異物をはさみ取って捨て去るので，体表はつねに清潔に保たれている。とげの間からは多数の管足が出ている。管足は細長い柄の先がふくらんだ形で，外見が若いエノキダケやもやしに似ている。ウニはとげと管足を活発に動かして海底をはい歩く。すべてが海産で，岩の多い浅い所にすみ，明るい間は岩にみずから掘った岩穴に半ば埋もれたり，岩陰や転石の下に潜み，夜になるとはい出て主として海藻(かいそう)類を食べるが，海底に落ちているものはほとんどなんでも食べる。

ウニの卵は，採取・受精がたやすく，また透明で観察に便利なため発生学の研究材料として欠くことのできないものである。受精卵は分裂をくり返し，エキノプルテウス幼生になり浮遊生活を送るが，やがて変態して海底に降りウニとなる。雌雄異体で，生殖巣は殻の中にミカンのふさのようにはいっており，卵巣と精巣とは肉眼で区別がつけにくい。

北海道にはエゾバフンウニ・キタムラサキウニ，東北地方以南にはバフンウニ・ムラサキウニ・アカウニが普通で，本州中部以南では，とげが長くて刺さると痛いのできらわれるガンガゼやラッパウニ・シラヒゲウニ・パイプウニが加わる。パイプウニは普通のウニと違って，とげの形が巻きたばこ用のパイプのようで，実際に加工してそのために使われることがある。ほとんどすべてのウニが食用になる。生殖巣は生のまま食べるとはなはだ美味である。地中海沿岸，ことにフランス南部のプロバンス地方，チリのサンチアゴなどでも生のまま賞味されている。また生殖巣を塩づけにしたり(どろうに)，いったん塩づけにしたものに酒・砂糖などを加えてすりつぶして(練りうに)，保存食品とする。最も味のよいのは，バフンウニとエゾバフンウニである。産額は，北海道が最も多い。うにはわずかな生殖巣を集めてつくるため，元来，高価な食品であり，安いうににはカニその他の卵を混入したものがある。ウニは欧米語では〈海のいが〉〈海のハリネズミ〉といわれている。

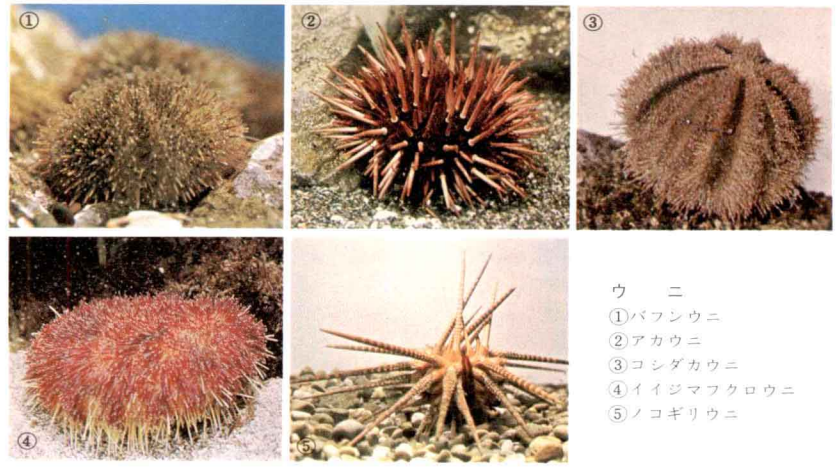
動物分類学上のウニ綱には，このほかに扁平(へんぺい)なカシパン*の類と卵形およびそれが変形した体形をもつタコノマクラ*・ブンブクチャガマ*なども含まれる。半球状のいわゆるウニ類は，体制が5放射型だが，カシパン以下の体制は2軸放射型で不正形亜綱に属している。 〔菅野 徹〕

ウニコール ⇨ イッカク

ウ-ヌー [U Nu] (1907～) ビルマの政治家。ラングーン大学で学生運動を指導，のち反英運動に参加して，ビルマ独立運動の父オン-サン*を助ける。第2次世界大戦中対日協力政権の外相，のちの情報相となる。戦後オン-サンを継いで反ファシスト人民自由連盟の総裁として初代首相に就任。1958年6月反ファシスト人民自由連盟が分裂し，同年10月政権をネ-ウィン*に譲る。1960年2月反ファシスト人民自由連盟清廉派を率いて総選挙に大勝し，同派を連邦党と改称して総裁となり，同年4月首相に返り咲いた。しかし1962年3月ネ-ウィンによるクーデターで追放，保護監禁される。1966年10月監禁解除となり，1969年8月巡礼を理由に出国してロンドンで〈ネ-ウィン政権打倒〉を宣言した。 〔吹浦忠正〕

うねおり 【畝織】 平織*の変化した組織。経糸(たていと)あるいは緯糸(ぬきいと)の一方に太い糸を用いて組織し，織物の表面に横あるいは縦の畝を現わす。経糸を密にし，数本の糸を引きそろえて太くした緯糸を平組織に織り込んでゆくと，織り上がりの表面には，経糸が高く低く上下しながら緯糸をお

ウナギツカミ



ウニ
①バフンウニ
②アカウニ
③コシダカウニ
④イイジマフクロウニ
⑤ノコギリウニ

おって，横の方向に平行に走る畝目が現われる。この組織は帯地・袴地(はかまじ)に広く使われ，琥珀織*(こはくおり)・博多織*(はかたおり)・仙台平*(せんだいひら)などにみられ，わずかに低い畝のあるものに塩瀬*・タフタ*などがある。また，一定の緯糸と組織するだけではなく，1本の緯糸と数本の緯糸をかわるがわる織り込んだり，2本・3本と引きそろえた緯糸を混用して，横畝に変化をつけたものもある。この横畝に対し，縦方向に畝を織って現わすにはさきの経糸と緯糸を置き替えればよい。たとえば経糸を綜絖(そうこう)・筬*(おさ)ともに2本と1本ずつ交互に通して平組織にし，縦方向に低い畝を現わしたヘアコード(→トブラルコ)，単にコード(→コード織り)ともいわれる婦人服地などがその一例である。〔勝呂小枝〕

うねたてさいばい【畦立て栽培】一般に作物を栽培する場合，種子をまいたり株を植えつけたあとは，株が倒れない程度に土寄せをする。しかし，根深ネギやサトイモなどのように茎を白くしたり，根をたくさんつけることを目的とするときには，特に土寄せを多くして栽培することがある。このような栽培をうね立て栽培という。なお，排水の悪い水田や畑で作物をつくるとき，水分過多になることを防ぐために高いうねをつくることがあるが，これも一種のうね立て栽培で，高うね栽培ともいう。〔松本正雄〕

うねび【畝傍】⇨橿原(かしはら)市

うねびやま【畝傍山】奈良盆地南部，橿原(かしはら)市の南にある小さな火山。標高199 m。大和(やまと)三山の一つで，古くから《万葉集》などによまれている。付近は飛鳥(あすか)の地の一部で，神武天皇陵をはじめ古代の天皇・貴族の陵墓や史跡が多い。

うねめ【采女】後宮女官の一。天皇に近侍し，食事のことにあたった。律令制(りつりょうせい)以前からあり，国造*(くにのみやつこ)が貢献していた。大化改新以後は少領以上の郡司*の姉妹子女の中から，容姿端正のものを選んで貢献した。のち官制の発達に伴い，742年(天平14)には各郡にひとりずつ貢献する制を定め，女官として大きな位置を占めていたが，807年(大同2)一時廃止された。811年(弘仁2)復活されたが，そののち下級女官へと転落の過程を経て，名目的には江戸時代まで存続した。〔星野貝子〕

うねり 海面の風浪*が，発生域を離れて静隠な場所や風の弱い場所に進んできたときに，発生域の風の影響が弱まって波の高さが減少しつつある波。波頭が比較的丸みをおび，風浪に比べて一般に波長が長く，周期も長い。暴風の余波や土用波はその例である。

うの【宇野】岡山県玉野市の南部地区。もと児島(こじま)郡宇野町で，1940年(昭和15)日比町と合併して玉野市となった。岡山県の海の玄関口で，1909年(明治42)，児島半島南東岸に港湾施設が整備され，翌1910年宇野線*の開通と同時に宇高連絡航路が開通し，四国への幹線ルートとして発展した。1929年に第2種重要港湾，翌1930年に開港場の指定を受けた。第2次世界大戦以降は新岸壁も完成して，外国航路の寄港地ともなり，高松市や対岸の直島(香川県)との間にはフェリーボートが通じている。〔浅井得一〕

畝傍山　青いイネの穂波の上に浮かぶ畝傍山の秀麗な姿。この深い歴史を秘めた田園にも最近宅地造成が急速に進んでいる

ウノアシガイ

乳　母　山東京伝筆《江戸風俗図巻》より　細見良蔵氏蔵

うのあしがい【鵜の足貝】軟体動物・腹足類・ユキノカサガイ科。かさ形の貝殻(かいがら)に，かさの骨のような7本内外のはっきりした条がはいっている。殻の長さは4 cm内外。殻表(かくひょう)は青黒色，内面は乳白色，頂部は黒かっ色で，軟体は黄白色。北海道南部以南・インド洋・太平洋に広く分布し，磯(いそ)の潮間帯の岩上にしっかりとはりついている，きわめて普通の種類。水かきのある水鳥のあしに似ているのでこの名がある。

うのこうじ【宇野浩二】(1891～1961)小説家。福岡市湊(みなと)町の生まれ。本名格次郎。少年時代を大阪市で送った。早稲田(わせだ)大学英文科を中退後，翻訳などで生活の資を得たが，近松秋江*・広津和郎*(かずお)らを知って，《蔵の中×苦の世界×子を貸し屋》などを発表，自然主義の作家としての地歩を築いた。その後の作品には《枯木のある風景》《子の来歴》などがある。また第2次《文学界》にも加わり，主として作家論を発表した。第2次世界大戦後には《浮沈》《思ひ川》などの作品がある。〔瀬良垣宏明〕

うのじゅうきち【宇野重吉】(1914～　)新劇俳優・演出家。本名寺尾信夫(のぶお)。福井県出身。日本大学芸術科中退。左翼劇場*・第1次新協劇団*を経て，第2次世界大戦後滝沢修*らと劇団民衆芸術劇場(民芸*)を結成した。映画・ラジオ・テレビ方面にも活躍し，近年は演出も担当している。

うのせん【宇野線】岡山～宇野間の国鉄路線。営業キロ数32.9。1910年(明治43)開業。宇高連絡航路(→宇高連絡線)と結んで，本州・四国間の連絡鉄道として重要である。全線電化。

うのちよ【宇野千代】(1897～　)小説家。山口県岩国市の生まれ。岩国高等女学校を卒業して1917年(大正6)に上京。1921年《時事新報》の懸賞に《脂粉の顔》で1等に入選し，文壇にデビューした。その後に発表した《墓を発(あば)く》は自然主義ふうの小説であり，《色ざんげ》は初期の代表作とされている。第2次世界大戦後の長編小説に《おはん》がある。

うのはな【卯の花】⇨ウツギ

うのはな【卯の花】豆腐をつくるときに出るかすで，大豆1 kgから約1.4 kg(水分85%)出る。ウノハナ(ウツギ*)に似ていることからこの名があり，またおから(御殻)ともきらず(雪花菜)ともいう。きらずとは，切らずにそのまま使える，という意味である。繊維その他不消化物が多くて消化はよくないが，なお，かなりのタンパク質・脂肪を含んでいるので，飼料として価値がある。ときには調理して食用に供することもある。うのはなづけ・うのはなじる・うのはなずし・いりうのはななどである。〔佐藤友太郎〕

うば【乳母】母親に代わって乳児に乳を与え，養育する女性。古くは《日本書紀》にヒコホホデミノミコトが乳母を使っている記述があり，平安時代には宮廷貴族の間で普通にみられた。律令(りつりょう)格式には，皇族は13歳まで乳母を官給されることが決められており，乳母は宮人に準ずる待遇を受けていた。その後も〈おちぬし〉〈めのと〉などとよばれ，江戸時代に至るまで行なわれていたが，特に江戸時代になると，将軍

家・諸大名において大きな権力をもつ乳母も現われた。また武家だけでなく裕福な町人の間でも乳母を雇う者があった。明治以後，農村でも地主などの富裕な家では，特に乳母を雇って子どもの養育にあてた例も多くみられた。なお，今日でも実母の乳を生児に与えるまえに，他人の母乳を飲ませる風習が各地にあり，これを乳親(ちちおや)とよんで仮親関係を結び，後見人の役割をになうことがある。〔須藤健一〕

うばうお 【姥魚】 硬骨魚類・ウバウオ科。ほぼ5cmどまりの海産魚。ややハゼに似て，上下に押しつぶされた形をしている。うろこはない。腹びれが吸盤になっていて，強い吸着力をもち，激しい流れにも流されない。オリーブ色の地に，濃色斑(はん)があるものとないものがある。他の魚と違い，くびの部分を持ち上げるような動作をし，またルビー色に輝く目がよく動く。頭を曲げ，尾を下げて，への字の形になって泳ぐが，きわめてへたである。千葉県以西の本州と沖縄本島に分布し，潮だまりや波打ちぎわに普通にみられる。

うばがい 【姥貝】 軟体動物・二枚貝類・バカガイ科。ホッキガイともいう。殻(から)の長さ10cmほどになる大形の貝で，バカガイによく似ている。鹿島灘(かしまなだ)以北，サハリン(樺太(からふと))方面の外洋に面した2～10mの砂底にすむ。北海道に多く，美味であるが成長がおそいので，種々の保護策が講じられている。長命で36～38年生きたという記録がある。

うばざめ 【姥鮫】 軟骨魚類・ウバザメ科。15mにもなる大形の海産魚。普通のサメの形だが，かなり太っている。全世界の冷たい外洋に分布し，表層を遊泳する。日本では高知以北に分布する。性質はおとなしく，バカザメの名もある。胎生で，産まれたときの体長は1.8mぐらいといわれる。

うばすてやま 【姥捨山】 ⇨姨捨(おばすて)山

うばすてやまでんせつ 【姥捨山伝説】 ⇨姨捨山(おばすてやま)伝説

うばそく・うばい 【優婆塞・優婆夷】 仏教で男女在家信者の呼称。梵語(ぼんご) upāsaka(ウパーサカ)，upāsikā(ウパーシカー)の音写。前者は清信士・近善男，後者は清信女・近善女ともいう。〈奉仕する人〉の意で，教団の出家者である比丘(びく)・比丘尼の生活必需品を供給し，修行生活を支援しながら，仏の教えを実行する。仏教信者になるには，原則として三帰，すなわち仏と法と比丘衆に帰依すると唱えるが，さらに五戒*をも受けるとする説もある。教団を構成する四衆・七衆の一。〔大南龍昇〕

うばたまむし 【姥吉丁虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・タマムシ科。オバタマムシともいう。体長30～40mm，体は全体暗銅色ないし金銅色で，ときに緑色をおびる。鞘翅に4条の隆起線がある。本州以西，朝鮮・中国などに分布し，幼虫は枯死したアカマツ・クロマツなどの材部を食べ，成虫になるまでに約3年を要する。俗にタマムシの雌であるといわれることもあるが，これはまったくの別種である。日本の南西部には，本種に近似のサツマウバタマムシが分布する。〔鈴木邦雄〕

ウバウオ

ウバガイ

ウバユリ
東北地方に自生するオオウバユリ

ウパニシャッド [Upaniṣad] 古代インドにおける正統バラモンの哲学思想を網羅(もうら)した哲学書。作製年代はBC800年ごろに始まって近世に及び，その文献の数は200種を下らない。語義〈近くにすわる〉の意から，師弟の間に口伝された秘密の教え，奥義をさす。いずれも四ベーダのどれかに属し，〈シュルティ(天啓文学)〉として神聖視されている。内容と言語により古ウパニシャッドと新ウパニシャッドに大別される。重要なものは多く古代のものに属し，その基本的教義は〈梵我一如*(ぼんがいちにょ)〉の思弁であり，この真理を悟って生死の繋縛(けばく)を離れ，解脱することにあるとする。また，後世インド宗教思想の根幹をなした〈業*〉と〈輪廻*(りんね)〉とそれからの解脱の思想が，はじめて明瞭(めいりょう)にされている。新ウパニシャッドは多岐に展開された。翻訳はペルシア語訳(1657)，ラテン語重訳(1775)の《ウプネカット》(50種)に始まり，近年各国語に訳され，邦訳では高楠(たかくす)順次郎監修《ウパニシャッド全書》(108種)，辻(つじ)直四郎《ヴェーダとウパニシャッド》などの抜粋訳がある。〔北条賢三〕

うばめがし 【姥目樫】 双子葉植物・ブナ科。中部地方以西の海岸に自生する常緑高木。高さ15mに達するが通常5～7mである。幹は暗黒色，枝を多数出すのでいけがきや公園樹として用いられる。葉は長さ2.7～4.5cm，幅1.3～2.5cmのつやのある楕円(だえん)形～倒卵形で上半分に荒い鋸歯(きょし)がある。葉柄は長さ4～8mmで淡かっ色の星状毛がある。4～5月，一年枝の基部に長さ3～5cmの雄花序，枝先に2花よりなる雌花序をつける。堅果は長さ約2cm，幅1.4cm円垂形で翌年の秋熟す。材はかたいので種々の細工物に用いられる。

うばやまかいづか 【姥山貝塚】 千葉県市川市柏(かしわ)井町にある縄文(じょうもん)時代中～後期の貝塚。1926年(大正15)台地上の広大な馬蹄(ばてい)形貝層から，多数の竪穴(たてあな)住居*跡・埋葬人骨などが発掘されて，原始時代の住居研究の端緒となった。

うばゆり 【姥百合】 単子葉植物・ユリ科の多年草。やぶの中や山中の木陰にはえる大形の鱗茎(りんけい)植物。鱗茎は葉柄の下部がふくれたものである。若苗は根出葉のみだが，年を経て鱗茎が大きくなると大きな茎が伸びて50～100cmに達し，7～8月に緑白色花を数花つける。花をつけた株では，もとの鱗茎はなくなり，根もとに新しい鱗茎ができる。和名は花の咲くときには葉が枯れていることが多いことから，葉と歯の音通からいう。本種によく似たものに本州中部の高山や北海道にはえるオオウバユリがある。〔横井朝子〕

ウバンギシャリ ⇨中央アフリカ(共和国)

うひょう 【雨氷】 0°C以下に冷却した霧雨または普通の雨が，0°C以下または0℃より少し高い温度の地面や物体にあたって氷結したもの。一般に均質で透明な氷層が地物に付着した現象である。水滴はしばしば0°C以下になっても氷にならないで液体のままでいる過冷却現象を呈するので，それが地物にあたって氷結することになるわけである。

ウファ [Ufa] ソビエト連邦，バシキール自治共和国の首都。ウラル山脈西麓(せいろく)，カマ川の支流ベラヤ川に臨む。人口172万3,000(1968年推)。ウラル工業地帯の中心都市の一つで，石油精製・金属加工・機械などの工業が盛んである。また，モスクワからチェリャビンスク方面とマグニトゴルスク方面に向かう鉄道の分岐点であり，河港の利用価値も高い。

ウフィツィびじゅつかん 【ウフィツィ美術館】 イタリア，フィレンツェにあり，収蔵品の質と数において世界最大の美術館の一。16世紀の政府庁舎の一部にメディチ家*の収集品を陳列したのがはじまりで，有名なボッチチェリ*《ビーナスの誕生》，ミケ

ランジェロ*《聖家族》など14世紀から16世紀にかけてのイタリアールネサンスの傑作や，ルネサンス以降の北欧絵画の名品，近世有名画家の自画像(特別コレクション)，80,000点以上のデッサンと版画・古代彫刻などを所蔵展示している。〔藤井久栄〕

ウフエ-ボワニ ［Felix Houphouët-Boigny］（1905～ ） コートジボアール共和国の大統領兼首相。酋長(しゅうちょう)のむすことして生まれ，ダカールの医学校に学ぶ。1946年，アフリカ民主連合(RDA)を創設。フランス共産党とも連携して民族運動を指導し，1950年から翌年にかけて大規模な闘争を展開した。のちにフランスの譲歩に応じ対仏協調に一転し，フランス本国の国務大臣もつとめた。1960年8月の独立実現後大統領に就任，1965年再選され，事実上の一党制であるコートジボアール民主党を率いて，親西欧政策をとった。〔喜多迅鷹〕

うぶぎ 【産着】 赤子に生後はじめて着せる着物。地方によっては，みつめぎもの・そでつなぎ・てつなぎなどとよぶ。生後3日めにはじめてそでのついた着物を着せる地方が多く，婚家でお産した場合，嫁の実家からうぶ着と祝儀(しゅうぎ)の食物を贈る。うぶ着を赤子に着せる儀礼は，人間世界への仲間入りを意味するだけでなく，うぶ着に呪術(じゅじゅつ)的縫いつけを施して，赤子を守護する意味もこめられている。

ウプサラ ［Uppsala］ スウェーデン南東部にある同国の旧都。18世紀に首都はストックホルムに移されたが，国王の戴冠(たいかん)式は近年までここで行なわれた。人口84,000(1964)。1447年創立のウプサラ大学を中心とする文教・学術都市として知られ，多くの学者を輩出している。市街にはゲスタワ-バーサ・博物学者リンネ・哲学者スウェーデンボイルらの墓のある大聖堂と，城・リンネ博物館などが立ち並ぶ。鉄道・道路はよく整備され，織物・金属工業なども行なわれている。〔野間三郎〕

うぶすな 【産土】 ⇨氏神

うぶめ 【産女】 お産で死んだ女の亡霊。〈うぶめ〉という語は単に産婦を意味するが，口承文芸の影響から母子の亡霊をいうようになった。赤子を抱いて路傍に現われ，通行人に赤子を抱いてくれと頼むといわれている。もっぱら妖怪*(ようかい)または幽霊*めいた怪異として語られ，昔話にも，また土着の伝説にもなっている。古い形では，抱いているうちに赤子がしだいに重くなるが，がまんして抱き続けていると剛力を授かったとか，その赤子が金銀財宝と化して大金持ちになったとか説かれる致富譚(ちふたん)の一種であった。血みどろの女が赤子を抱いてヤナギの下に立つといった陰惨な幽霊めいた話になったのはのちの変化である。

うぶゆ 【産湯】 出生後すぐにさせる沐浴(もくよく)。初湯ともいう。分娩*(ぶんべん)が始まると湯を沸かし浴槽(よくそう)の準備を整え，出生後臍帯(せいたい)の結紮(けっさつ)を済ませてすぐに使わせる。浴槽には以前は木製のたらいを用いていたが，最近ではプラスチックなどの製品がよく用いられている。40°Cぐらいの湯を，ゆぶねに半分ぐらいまで入れて乳児を浸し，湯の中でよくからだを洗う。上げてから水分をよくふき，ベビーパウダーを振り，臍帯のしまつをし，おむつと衣服をつけさせる。うぶ湯は生児の健康状態によってはかえって行なわないほうがよいこともある。未熟児のような場合は，体表面の脂肪を洗い去ることが皮膚の保護のために不利になることもあるので，汚物をだいたいふき取るだけにする。またオイルバスといって，オリーブ油や流動パラフィンなどを浸した脱脂綿で，皮膚をふくだけのこともある。

【特殊な風習】生児がじょうぶに育つようにと，昔からいろいろな風習が行なわれている。平安時代の医学書《医心方*》には牛脂や虎頭骨(にとうこつ)(トラの骨)を入れるとよいと書かれている。ギリシア・ローマ時代には，臍帯結紮後に生児を冷水に浸し，またぶどう酒や食塩をうぶ湯に混ぜた。日本でも，地方によっては日本酒や酢を混ぜたり食塩を入れたりする。さらに皮膚のかぶれを予防するために，湯を沸かすときに漆の塗り物を入れたりする。そのほか卵を入れたり，また卵をせっけん代わりに用いる地方もある。〔宇留野勝正〕

うぶんたい 【宇文泰】（505～556） 中国鮮卑宇文部出身の軍閥で，北周の事実上の創始者。北魏(ほくぎ)末の動乱期に台頭，534年高歓の東魏に対抗して長安に孝武帝を擁立，西魏を建てた。20余年にわたって西魏の実権を掌握，漢族の名臣蘇綽(そしゃく)の補佐を得て《周礼*(しゅらい)》にならった官制改革や府兵制を実施し，北周の基礎を築いた。

うべ 【宇部(市)】 山口県南西部の市。宇部炭田*の開発と，第1次世界大戦後の工業の著しい発達により，1921年(大正10)村から一躍市制を施行した。人口116万6,000。周防灘(すおうなだ)に臨み，産業三大別人口比は9：37：54で，ソーダ・硫安・硫酸などの化学工業をはじめ，セメント・金属・機械などの諸工業が発達し，小野田とともに周南工業整備特別地域の中心地である。宇部線で山陽本線小郡(おごおり)と連絡し，北郊には国道2号線が通ずる。宇部港は10,000t級の船が接岸できる重要港湾である。1965年(昭和40)には，県下唯一の空港も完成した。山口大学(医・工)・工業短大・国立工専など，工業都市にふさわしい教育施設をもち，常盤(ときわ)公園や阿知須(あちす)温泉などの観光地がある。

宇部市 港の上空から見た宇部港と宇部市の一部。左手の石炭埠頭には石炭が集積され，石炭輸送の小形鋼船が接岸している

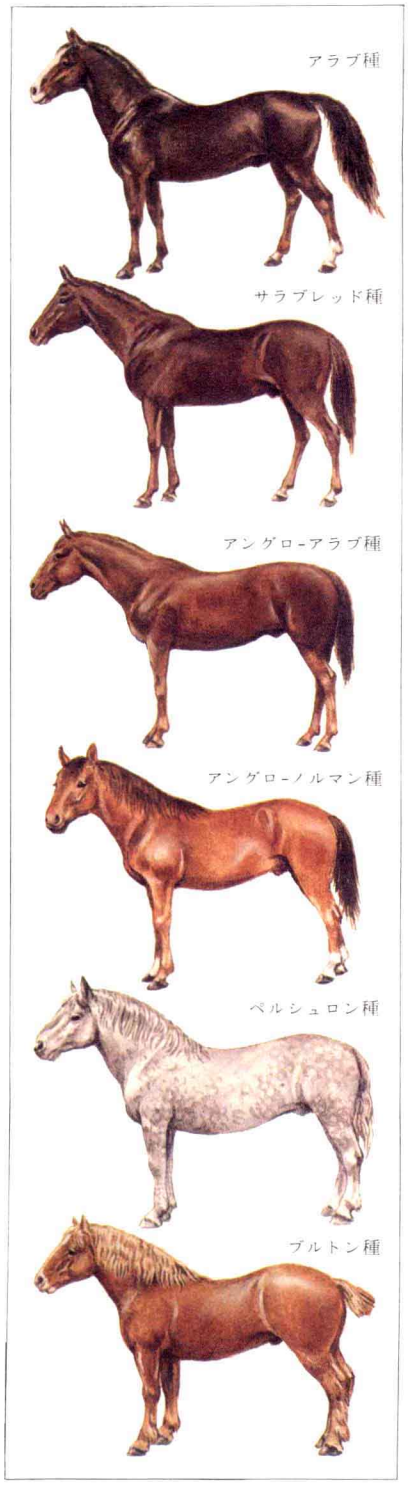
うべこうさん 【宇部興産(株)】 化学・石油化学・セメント・機械・無煙炭などを生産する総合化学メーカー。生産の内訳は，肥料を中心とする化学品43%，セメント42%，機械12%，石炭3%。1897年(明治30)に設立された沖の山炭鉱が母体で，1942年(昭和17)に総合化学会社として発足。これまで山口県宇部市に工場を集中してもち発展してきたが，総合石油化学メーカーへの転換を図り，千葉県五井・大阪府堺など各地に新しい工場をつくり，その拡充・強化に力を入れている。資本金382億8,300万円，年間売上高2,354億200万円，従業員数9,916(1980年9月)。

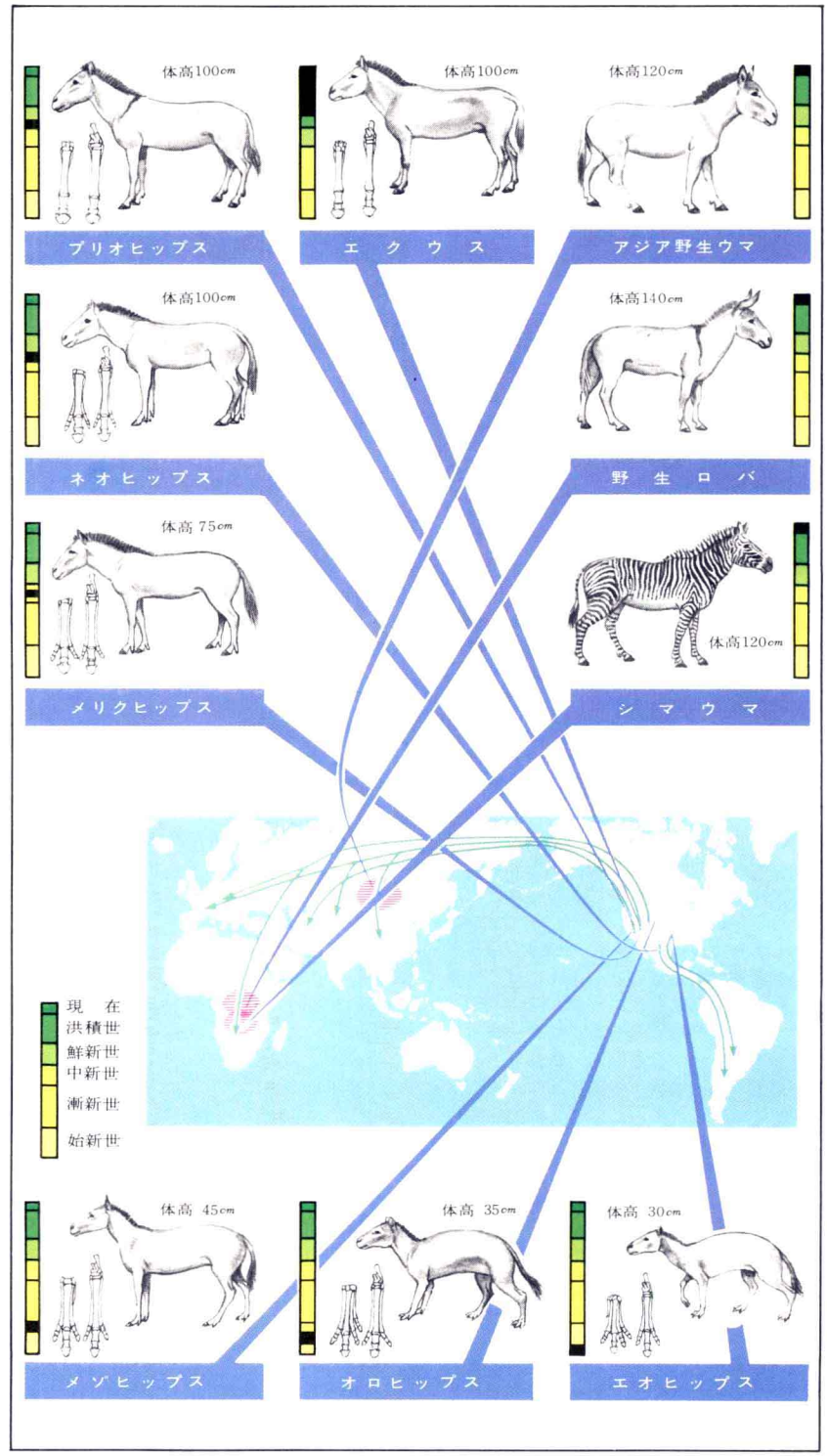
うべたんでん 【宇部炭田】 山口県の宇部市・小野田市の沿岸から海底に延び，埋蔵量約5億t，年間出炭量約100万tであったが，石炭不況のため1967年(昭和42)最後に残った沖の山炭鉱が閉山して，現在は石炭が掘られていない。炭田は大部分が海底下にあり，炭層の厚さは0.6～1.6m程度で炭質は亜レキセイ炭であった。宇部市にはこの石炭を基礎にした化学工業が興っている。

ウペペサンケさん 【ウペペサンケ山】 北海道中央部，大雪山国立公園の南東部にある火山。十勝(とかち)川の支流である然別(しかりべつ)川の上流にある然別湖の北の奥にそびえ，標高1,870m。然別火山群の主峰の一。東側は音更(おとふけ)川の谷でくぎられる。

ウポル(島) ［Upolu］ 中部太平洋の西南，9島からなる独立国，西サモアの一島。面積1,100km²。島の北岸に首都アピアがある。1722年オランダ人が発見した。山が多く，最高峰バエフェツ山は1,100m。雨量多く，土壌(どじょう)は肥沃(ひよく)で，ゴム・ココヤシ・カカオ・バナナを産する。イギリスの小説家R.L.スチブンソン*は晩年の4年間をこの島で送った。彼の家はバイリマに残っており，墓もバエア山のふもとにある。

うま 【馬】 ウマは動物分類学上，脊椎(せきつい)動物門の哺乳(ほにゅう)動物綱にある有胎盤動物の奇蹄(きてい)目のウマ科に属する3ウマ属の一つである。ウマ科にはエクウス-カバールス(ウマ)・エクウス-アッシヌス(ロバ)・エクウス-ヒポチグリス(シマウマ)とがある。ウマはほとんど全部が家畜化された家ウマであり，ロバには野生ロバと家ロ





ウ　マ

バとが共存し，シマウマはもちろん全部野生である。

〔進化〕ウマは他の家畜に比べ，その進化の過程がかなり明らかにされている。ウマの進化は，主として北アメリカで系統的に発見された多くの化石によって知られ，その化石は，主として第三紀層に発見されたもので，始新世・漸新世・中新世・鮮新世にわたっている。

始新世の下層に発見されたエオヒップスが最も古い先祖とされており，その大きさは20～50cmと一定していないが，ほぼキツネ大で，頭とくびが短く，背がひどく湾曲し，あしは短く，前肢(ぜんし)には4本の指，後肢には3本の指がある。おそらく，当時の地表

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com